

令和2年度

# 事業報告書

社会福祉法人 吉祥会



## ◆月別延べ人数・稼働率

(名)

要介護度/月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
1	60	62	60	116	105	119
2	210	217	205	202	217	210
3	330	302	311	304	308	305
4	671	647	618	699	696	697
5	470	471	482	527	497	487
延べ人数	1741	1699	1676	1848	1823	1818
空きベッド(床)	122	135	164	132	161	91
稼働率(%)	90.7	85.6	87.3	93.1	91.9	94.7

要介護度/月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間累計
1	124	120	124	124	112	124	1374
2	217	206	190	189	168	186	2603
3	339	268	302	310	308	341	4069
4	713	770	785	787	701	743	9270
5	434	450	463	424	424	441	6011
延べ人数	1827	1814	1864	1834	1713	1835	23327
空きベッド(床)	103	93	114	150	71	149	1634
稼働率(%)	92.1	94.5	94.0	92.4	95.6	92.5	92.0

## ◆ベッド稼働率

年間平均稼働率

92.0%

## ◆保険者別入居者数(令和3年3月31日 現在64名)

(名)

	寒川町	茅ヶ崎市	藤沢市	海老名市	横浜市	計
男性	18	0	0	0	0	18
女性	32	8	1	1	2	44
計	50	8	1	1	2	62

## ◆年齢別人数(令和3年3月31日 現在62名)

(名)

	65~69	70~74	75~79	80~84	85~89	90~94	95~99	100以上	計
男性	0	1	3	5	6	1	1	0	17
女性	0	1	2	10	12	14	4	2	45
計	0	2	5	15	18	15	5	2	62

	平均年齢	最高年齢	最年少年齢
男性	84.7	94	72
女性	91.9	103	75
計	88.3		

## ◆本入所申込み(待機)者数(令和3年3月31日 現在)

(名)

保険者	申込み者数			保険者	申込み者数			保険者	申込み者数			申込み者数(合計)		
	男	女	計		男	女	計		男	女	計	男	女	計
寒川町	34	44	78	大磯町	0	0	0	厚木市	1	1	2	44	67	111
茅ヶ崎市	7	8	15	鎌倉市	0	0	0	綾瀬市	1	0	1			
藤沢市	0	8	8	横浜市	0	0	0	東京都	1	1	2			
海老名市	0	1	1	川崎市	0	1	1	その他	0	3	3			

## 2020年度 短期入所生活介護 事業報告

2020年度 短期入所生活介護では、以下の内容にて事業を実施いたしましたことを報告します。

2020年度5月中旬頃より短期入所生活介護に至りましては特養ベッドの空床(入院中の方や退所された方のベッドの活用)を活用し定員7名以上受け入れる体制を整えています。

稼働率が毎月ほとんど100%を超えているのは空床ベッドを活用したことで影響しています。

### ◎年間実績

	2020年度	(前年度:2019年度)
利用延べ人数(名)	3,297名	2,899名
1日平均(名)	7.96名	7.8名
稼働率(%)	113.4%	111%
平均要介護度	2.76	2.93
新規人数(名)	61名	23名

### ◎年間稼働率表



年間平均稼働率:113.4%

## ◎年間活動

必要時実施	事業所会議
隔月実施	壁紙作り
季節に合わせた行事	クリスマス会・祝賀会 など
その他	・外気浴・リハビリ体操 ・レクリエーション・個別レク

## ◎事業総括

・2020年度の稼働率に対しては特養の空床(空きベッド)を5月中旬頃から最大限活用するようにしたことで100%以上をほぼ毎月達成することが出来た。

特養相談員と短期相談員で連携することでベッド活用が上手く回せたことが結果に繋がっている。ただし特養の空床をもっと活用できていれば特養との合算目標である96%以上も達することが出来た為に今後の課題の一つである。

新規獲得に関しては昨年度より倍以上の依頼があり、特に他事業所からの緊急の依頼に対してほとんど断らずに受けたことと、現場スタッフが柔軟に対応したことで緊急依頼以降も新規の依頼が続いたことは評価できる。

1年間を通して毎年の課題でもあるご利用者様の所持品の忘れ物やアクシデント発生(転倒)の減少は2021年度も引き続き対応策を会議で話し合い減らしていきたい。

2020年度に流行したコロナウイルスに関しては特に事業所として影響はなかったが今後も感染対策を充分に行い安全に過ごせる生活の場を提供していきたい。

報告者 短期入所生活介護 生活相談員 : 高野 将樹

# 通所介護 2020年度実績報告

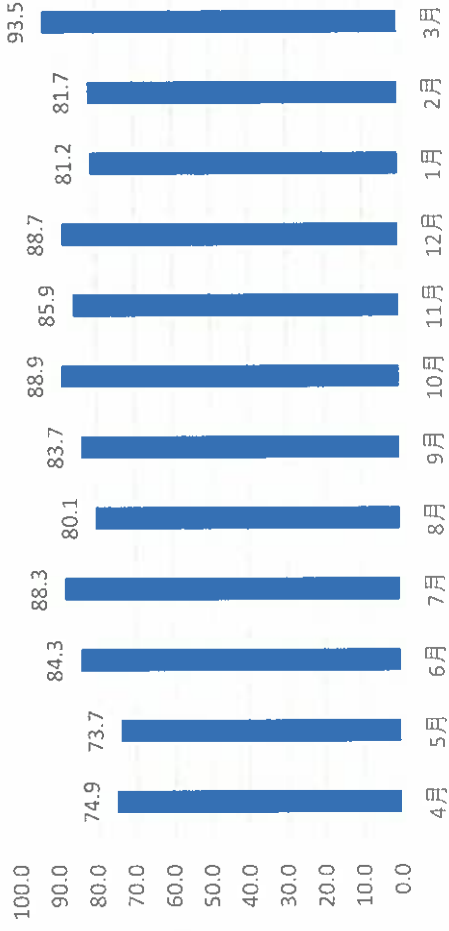
2021年5月29日 作成  
岡崎 敬之

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度	昨年度比
稼働率(%)	74.9	73.7	84.3	88.3	80.1	83.7	88.9	85.9	88.7	81.2	81.7	93.5	83.74	△ 10.32
営業日数(日)	26	26	26	27	26	26	27	25	26	24	24	27	25.83	0.16
1月利用延べ人数(人)	562	553	632	662	601	628	667	644	665	609	613	701	628.08	△ 77.34
1日平均利用人数(人)	21.6	21.3	24.3	24.5	23.1	24.2	24.7	25.8	25.6	25.4	25.5	26.0	24.33	△ 3.15
平均介護度	2.19	2.18	2.14	2.10	2.01	2.01	2.06	1.99	2.06	2.11	2.13	1.91	2.07	△ 0.16
中重度割合(%)	28.40	27.62	26.96	26.47	24.9	25.19	26.27	22.97	25.09	27.79	27.24	22.57	25.96	

\* 稼働率は、通常規模通所介護定員750人に対して算出

要介護度別構成	実績(人)	昨年度比(人)
要支援1	277	△ 55
要支援2	705	△ 58
小計	982	
要介護1	2,879	△ 73
要介護2	1,972	△ 116
要介護3	530	△ 33
要介護4	641	△ 144
要介護5	521	△ 42
小計	6,543	
合計	7,525	△ 941

2020年度 稼働率推移



# 令和2年度 事業計画・報告書 (品質目標実施計画・報告書)

令和2年3月25日

法人年度目標		理事長	施設長	品質管理責任者	管理者	作成者
稼働率とサービスの質を向上させる ご利用者・スタッフの満足度アップへ向けた業務改善へ挑戦する		三澤京子	三澤京子	今村真	今村真	鈴木健吾
年度目標						
介護老人福祉施設 事業所		① 毎月62床(稼働率96%)以上を維持 ② 満足度アップ(ご利用者・スタッフ)と理念・基本方針への意識変化				
前年度の振り返り(反省・改善策)						
今年度平均稼働率として90%を下回っていた為、次年度は毎月62床以上を維持出来るようにスムーズな入所調整と短期入所の空所利用へと取り組む。会議等の話し合いを計画通りに実施できなかったため、計画通り実施する工夫が必要。						
年間計画		具体的な取り組み計画			評価(達成度)	
① 入院者・対応困難者の早期退所の調整と短期間での新規入所の受け入れ。空床時には短期入所の活用へつなげる。 ② スタッフとのコミュニケーション時間を十分に確保し、サービスの向上と法人理念へと向かう意識を統一させる。		① 空床を減らす取り組み 1) 短期入所と密に連携を取り、入院時の空床を活用。 2) 早急に入所可能となるよう事前に準備を整える 3) 申し込み状況に応じて居室変更(男女の入れ替え)を検討。 4) 退所者となりうる方の早期選定と、看護師を交えたご家族との密な話し合いの実施。 ② 定期的な会議・話し合いの開催 1) 個別面談の実施(3回以上/年または必要時) 2) 事業所会議・グループ会議の開催(2~4回以上/年) 3) 管理者・責任者・主任会議の開催(1回以上/月) 4) 全ての会議・話し合いで法人理念・年度目標に沿って達成出来ているのか確認・検討を実施。			① 平均稼働率92%の未達成。 ベッドコントロール・早期事前準備に關して効果的を為、次年度も実施。 ② 年度末面談にて半数以下が理念・基本方針を理解していなかった為、未達成とする。	
理事長評価		早期発見・早期受診に努めているが入院者を減少させることは難しいと判断し、空床を短期入所サービスで対応できたことは評価できる。 また、コロナ禍でのサービス提供であったが感染者がいなかったことはもちろん、面会方法に工夫(リモート・電話・写真付きの手紙)したことも評価する。 神奈川県における特養平均稼働率からは低い為、いかに空床を抑えるか・空床を利用するかを来年度も重点的に取り組んでほしい。			品質管理責任者 今村真 管理者 今村真 作成者 鈴木健吾	



平成3年4月10日 三澤京子

# 令和2年度 事業計画・報告書 (品質目標実施計画・報告書)

令和2年3月25日

法人年度目標		理事長	施設長	品質管理責任者	管理者	作成者
稼働率とサービスの質を向上させる ご利用者・スタッフの満足度アップへ向けた業務改善へ挑戦する		三澤京子	三澤京子	今村真	高野将樹	高野将樹
<p>短期入所生活介護 事業所</p> <p>年度目標</p> <p>3つの力(観察・洞察・実行)を身につけ、お客様・スタッフが満足できる5Kを目指す。 『ご利用者の変化に些細なことでも気づき(K)、考え(K)で見直し、その事に対して改善(K)を図り 在宅生活維持することで稼働率(K)アップに繋がると共に職員の質の向上(K)にも繋げる』</p>						
<p>前年度の振り返り(反省・改善策)</p> <p>特養とのこまめな連携で空床利用できていたが、退院日までの予測ができず空床の日があった。特養との合算稼働率の目標値は達成できなかった。 転倒アクシデントが多く、利用者の日々の変化に気付けるチーム作りが不足していた。</p>						
年間計画		具体的な取り組み計画		評価(達成度)		
<p>① 特養の空床利用を積極的に活用し、稼働率アップを目指す。</p> <p>② 事業所会議の開催(必要時・臨時にも開催)</p> <p>③ 毎日のレクリエーション活動の実施 ADL向上に向けた体操等をサービスに取り入れる</p> <p>④ 特養行事の共同開催(秋祭り・敬老会等)</p>	<p>① 特養相談員とのこまめな連携を図る。入院者の状況から空床をショートステイに活用する。(随時)</p> <p>② 短期入所事業所会議の開催(3ヶ月/1回以上・必要時)また、定期開催だけでなく、必要に応じて(クレーン・事故発生時や業務見直し時等)開催する。</p> <p>③ ADL向上を目指したレクリエーション・体操を取り込む。 4月より業務を見直し、5月より実施していく。 ※業務時間見直し(4月)→計画(5月)→実施(5月)</p>		<p>① 毎月の稼働は特養の空床を利用すること で100%以上を達成できた。② 会議は3回以上行うことができた。 ③ 体操やレクリエーションを行うことは当たり前のサービスであり利用者のために有効的なサービスを実施できなかった。④ ③に関しては評価設定を明確に示していない(評価がわかりづらいもの)になってしまった。</p>			
理事長評価		品質管理責任者	管理者	作成者		
特養の空床を活用したベッドコントロールと、特養相談員でも短期入所の利用者受け入れ調整可能となったことが評価できる。 短期入所は家族の休養目的とした利用が多いためか、サービスの質向上には取り組みにくいと感じる。稼働率維持するために、ご利用者自身から選ばれるサービス提供を来年度は取り組みこと。		今村真	高野将樹	高野将樹		



令和3年4月10日 三澤京子



# 令和2年度 事業計画・報告書 (品質目標実施計画・報告書)

令和2年3月30日

法人年度目標		理事長	施設長	品質管理責任者	管理者	作成者
稼働率とサービスの質を向上させる ご利用者・スタッフの満足度アップへ向けた業務改善へ挑戦する		三澤京子	三澤京子	今村真	岡崎敬之	岡崎敬之
年度目標						
通所介護	事業所	1. 1日の平均利用人数28人の達成 2. 満足度チェックにて95%以上を達成(スタッフ・ご利用者共に)				
前年度の振り返り(反省・改善策)						
目標としたADL向上に繋がるサービスは提供することができたが、年間計画通りの取り組みを実施したが、稼働率UPには繋がらず。ご利用者・ケアマネジャーのニーズに忘える サービスとなることで次年度は稼働率UPを目指したい。						
年間計画		評価(達成度)				
① 既成サービスの脱却	具体的な取り組み計画	1. 1日の平均利用人数は利用者減が収まらず年間で24,333人/日となり未達成。 2. スタッフ・ご利用者共にアンケートや聞き取りをしたが、「満足度」の判断基準が明確でなく、達成の評価が曖昧であった。また不満足な部分が浮かび上がることが多かった。				
② サービスの評価・要望の調査						
③ デイサービスの魅力を発信						
④ 業務の効率化						
⑤ サービス向上に向けて意見の(くみ上げ)活かす						
理事長評価		1日平均利用数が目標値より3名以上少ない結果となっているが、その原因把握が弱いのではないかと、目標値が高すぎた結果なのかを早急に検討すること。また、当法人デイサービスとしての強みを明確にし、他デイサービスとの明確化にも取り組むこと。今後もスタッフ確保と集客がさらに難しい状況となるため、他サービスとの業務効率化・業務連携を図ることを希望する。				

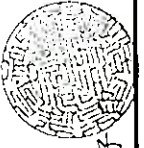


令和3年4月10日 三澤京子

# 令和2年度 事業計画・報告書 (品質目標実施計画・報告書)

令和2年3月10日

法人年度目標		理事長	施設長	品質管理責任者	管理者	作成者
稼働率とサービスの質を向上させる ご利用者・スタッフの満足度アップへ向けた業務改善へ挑戦する		三澤京子	三澤京子	今村真	石黒亮	石黒亮
年度目標						
居宅介護支援 事業所	特定事業所加算を取得し続けるために個人の課題を研修や会議で学び克服する。 事業所全体の資質を向上させてご利用者の望む生活を支援する。					
前年度の振り返り (反省・改善策)						
特定事業所加算を取得継続することができた。 外部の居宅介護支援事業者と共同で事例検討会や研修会等を実施したが、地域全体のケアマネジメントの質の向上に繋がったとは言えない。						
年間計画		具体的な取り組み計画			評価(達成度)	
① 介護支援専門員1人当たりの利用者の平均件数が40名未満であること (超過すると加算が取り下げになる為)	① 月末の事業所会議以外に終了者が発生した時点で新規利用者の受け入れ時期を判断する。 ② 過去や現在の中重度者や支援困難ケースを会議で抽出して、今後の対応に繋がる知識や技術を習得する。 ③ 業務内容に対する時間を洗い出し手間を省くことで、新たに個人の課題に取り組む。			① 随時受け入れ担当件数を把握すること とで40名を超過せずに対応できた。② 知識や技術の習得は、自己評価で判 断するしがなく、評価が曖昧となった。③ 内容を把握するだけに留まり、その後の 評価に繋がらず。 ※ 模索し続けた為、ゴールが曖昧でその 場限りの取り組みとなってしまった。		
② 中重度者や支援困難ケースへの対応力を身に付ける。				品質管理責任者 管理者 作成者		
③ 業務を効率化してご利用者や自身への時間に費やす。				今村真 石黒亮 石黒亮		
理事長評価						
依頼は断らないスタイルを貫き、平均件数40名未満を継続できたことは評価する。介護支援専門員は個人で働くこともあり、来年度はそれぞれの仕事、ぶりを十分評価・管理できる方法を事業所内で確立してほしい。また、来年度はICT化を進めることで、担当件数が増加できるため必ず取り組んでもらいたい。 もちろん年間計画③も継続して取り組み、ICT化と共に業務効率化を図ることを望む						

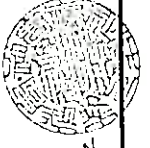


令和3年4月10日 三澤京子

# 令和2年度 事業計画・報告書 (品質目標実施計画・報告書)

令和2年3月10日

法人年度目標		理事長	施設長	品質管理責任者	管理者	作成者
稼働率とサービスの質を向上させる ご利用者・スタッフの満足度アップへ向けた業務改善へ挑戦する		三澤京子	三澤京子	今村真	今村真	吉田由紀
<p>年度目標</p> <p>①業務のペーパーレス化 ②加算・補助金等の新規取得 ③介護機器試行への協力</p>						
前年度の振り返り(反省・改善策)	<p>加算取得について知識習得・事務員間での共有を進めることができています。補助金・助成金についても継続取得を続けていく。今後は職員入れ替わり時にも対応できるように、動画マニュアルの導入 反省点は過年度同様、事務員の入れ替わりがあったため、請求・給与業務における業務分担を進めることができなかつた。今後は職員入れ替わり時にも対応できるように、動画マニュアルの導入 準備を進めていく。また、業務ペーパーレス化も進めることでスタッフの満足度・人件費削減に取り組んでいく。</p>					
年間計画	<p>具体的な取り組み計画</p> <p>① 4月～ 業務連絡票・物品購入申請書から試行 7月～ 進捗確認 10月～ 請求書等、その他書類についてPDF化し 電子データ保存の試行。 1月～ 試行結果まとめ・次年度課題抽出</p> <p>② 補助金・助成金継続取得 予定(1)キャリアアップ助成金 短時間労働時間延長コース (2)キャリアアップ助成金 正社員化コース (3)人材確保等支援助成金 設備改善等支援コース</p> <p>③ 加算について、定期的に事務所内で情報共有する。 (4月・9月・1月・3月)</p> <p>④ 介護機器試行において、必要に応じて協力していく。</p>					
評価(達成度)	<p>①ペーパーレス化実施により年間25万円の経費削減達成 ②補助金・助成金取得により年1,500万円の収入に繋げることができた。 ③情報共有システム機器を活用し、研修受講に使用。年間平均90.2%視聴達成。 労働生産性の高い補助金・助成金取得は今後も継続させることで収入貢献を行う。 また、引き続き経費削減に努め利益率アップに努める。</p>					
品質管理責任者	品質管理責任者	管理者	作成者			
今村真	今村真	今村真	吉田由紀			
理事長評価	<p>全事業で計画通りスムーズにペーパーレス化へ移行できたことを評価する。また、積極的に補助金・助成金を取得できたことも評価できる。 スタッフの入れ替わりが他事業所と比較して頻繁であるが、まずは原因分析と採用から定着に向けての見直しを実施すること。 今後一層ICT化を進めていくため、介護スタッフ(介護サービス事業所)への導入提案も望む。</p>					



令和3年4月10日 三澤 京子